

知的障がいの理解のために

- 言葉を使う、記憶する、複雑な事を考える等の事が苦手で、ほかの人より時間がかかったり出来なかつたりします。
- 仕事の順序を覚えることや、人とのやり取りが難しい事があります。
- 知的障がいだからまったくできないというわけではなく、特別な人ではなく「一人の人間」として接してください。

心のこもったコミュニケーションのポイント

コミュニケーションがとれないという訳ではありません。普通に声をかけてください。ただ、次のようなことに気をつけましょう。

① 言葉と一緒に身振りや絵などを使う

言葉の理解が難しい事があります。そのため、話しかけられても、何を言われているのかわからない事があります。そんなときは、身振りや絵・写真などを見せながら、話すと伝わる事があります。



② 答えやすい聞き方にする

自分で答えを考える質問、例えば「どうする?」「どう思う?」は、答えが思いつきにくい場合があります。答えを二者択一のように選ぶ形にすると回答がしやすくなります。



今日のお昼は
ラーメンとカレー
どっちにする?



じゃ、カレーで!

③ 困っているかどうかを見る

一人で出来ることはたくさんあります。外見の様子だけでは本当に困っているのか判断は難しいですが、もし困っていたら必要な手助けをしましょう。



何かお困りですか?



受付を探しています

④ はっきり伝える

あいまいな言い方や表現は伝わりにくいことがあります。やめてほしい時は、「やめて」とはっきり伝えましょう。あいまいにすると、意味がわからないので、いつまでも質問を続けてしまったりします。



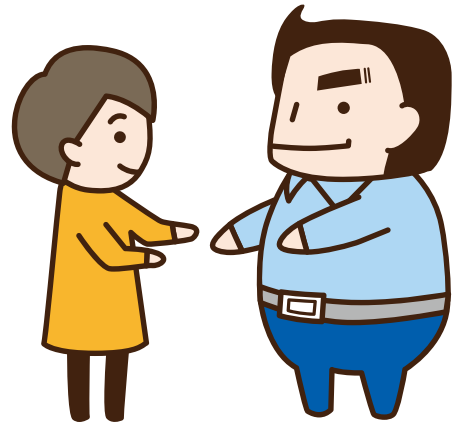
このケーキは
Aさんの分なので
ダメです。



ケーキをもう1個
食べてもいいかな?

⑤ ゆったりとした気持ちで接する

その年齢ならわかっているはずのルールが、身についていないことがあります。どんな事でも許したり我慢したりする必要はないのですが、責めないようにしてください。注意しても伝わらない時は、伝え方を工夫してみてください。



特別な人ではありません

難しい文章や会話を理解する事や、おつりのやりとりのような日常生活の中での計算などが苦手な人が多いです。

一見しては障がい分かりにくく、少し話をしただけでは障がいがあることを感じさせない人もいます。ですが、未経験の出来事や変化に合わせる事が難しい人が多いです。

特徴の現れ方には個人差が大きく、支援の仕方は一人ひとり違います。



「何もわからない・自分では何もできない」ではありません

周りの状況に関係なく自分の興味あることにこだわって夢中になってしまう人がいます。例えば、電車で「車内アナウンス」をまねしたり、大きな声で独り言を言い続けたりすることもあります。

しかし、そのような行動を見て不思議に思い、「何もわからない」「自分では何もできない」と決めつける事は間違いです。

また、障がいの重い軽いに関わらず、嬉しいとか悲しいという気持ちは障がいのない人と変わりません。周りの人の気持ちや環境の変化は敏感に感じ取っています。ただ、それを言葉で表す事が、難しかったりできなかったりします。



大切なのは「偏見」のバリアを取り除くこと

接する時に必要なのは、こわがったり、じろじろ見たり、無視しない事です。

歩道を下りて車道に飛び出すといった危険な行動をとっている時や、本人が困っているように見える時は、積極的にサポートしましょう。

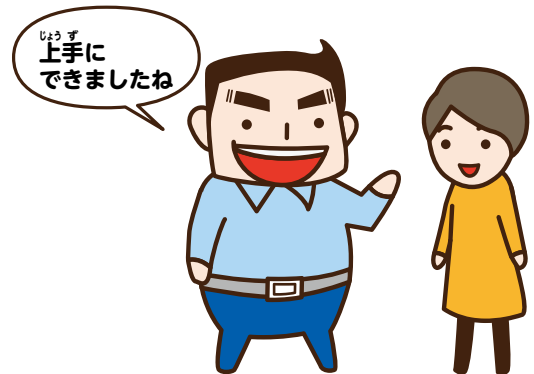


ほめることも大切です

小さい子供たちの成長にとって、「ほめる」事はとても大切な事だということはよく言われます。知的障がいのある人も同じです。

知的障がいのある人は、苦手な事が多いので、ちょっとした事でもほめられると嬉しくなります。

「これくらい普通」ではなく、「こんな事もできるんだ」という見方をしてください。



私たちにできること

知的障がいのある人も、一般の人と変わりなく感情があります。優しく接してもらえば嬉しく、ばかにされれば悲しくなります。一般の人と同じように、いろいろな性格の人がいるので、身近にいたら、一人の人間としてその人の事を知って、一人の人間として接してください。

障がいがあっても社会に参加しています

知的障がいのある人の多くは、学校を卒業すると会社や地域の福祉施設・作業所などで働いています。知的障がいがある人が働くにはちょっとした工夫が必要です。たとえばいろいろな人が指示を出すと、障がいのある人が混乱するので、指示を出す人を一人に決めた方がうまくいきます。

また、計算が苦手な人には、計算をしなくても済むような工夫や、作業の順序を掲示しておくなど、配慮や工夫が必要です。

知的障がいのある人が仕事をする場合、はじめはジョブコーチに付いてもらうと良いでしょう。ジョブコーチ（※ジョブコーチとは障がいのある人が一人で働けるように支援する職員です）が会社との間に入ることで、会社は障がいのある人への接し方を知り障がいのある人は支援を受けながら仕事に慣れていくので、次第に仕事ができるようになります。

障がいのある人も一生懸命働いています。喫茶店で働いている人や街で作品を販売している人を見かけることがあると思います。頑張っている姿を見てください。

福祉施設で働く



喫茶店で働く



ジョブコーチによる支援



厨房で働く



商店で働く



ボランティア活動する



イベントや祭りに参加する

